

## 編集後記

四月一日、長年の念願でありました太宰府市公文書館が開館するはこびとなりました。公文書館のより良い在り方を模索して日々努力を重ねております。

さて、今年も『年報太宰府学』第八号をお届けします。

本号におきましては、岩田和也氏・大屋綾乃氏・山口敏幸氏・豊島幸子氏・寶龜道聰氏・中田敏子氏・藤井祐介氏と多くの方々にご寄稿いただき、川添昭二顧問からは文献目録のご提供をいただきました。誠にありがとうございます。

岩田氏・大屋氏の論文は太宰府崇福寺跡出土の崇福寺瓦の編年について検討しています。発掘調査報告書の問題点を踏まえ、崇福寺関連の文献資料を分析して瓦の実年代を推定しています。

山口氏・豊島氏・寶龜氏・中田氏による資料紹介は、平戸藩松浦家中であった奥嶋景就の紀行記を翻刻・分析したものです。『宇佐詣記』は江戸時代後期における一藩士の紀行記として貴重であり、解題では景就の履歴に関する考察のほかに奥島家文書の概要についても明らかにされています。宇佐宮参詣の旅においては、帰りに太宰府に立ち寄っており、都府楼跡の礎石図をはじめ太宰府周辺を描いた絵図を収載しています。

藤井氏・朱雀氏の資料紹介は、幕末に太宰府で活躍した栗原順平のために作製された書画帖を翻刻し注釈を加えたものです。『英華帖』は三条実美ら五卿と随行者、その他当時一級の文人らによるもので、幕末維新期の太宰府を彩る作品の全貌を紹介、検討しています。

川添顧問・朱雀氏共編の文献目録は、菊池氏研究の基礎的かつ貴重

なデータで、当該研究の進展に寄与するものとなっています。

また、公文書館設立に関する報告と、宮原家文書目録も併載いたしました。

今後も「太宰府学」のさらなる探究を志し本書の刊行を進めていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

(〇)

### 年報太宰府学 第八号

発行日 平成26年3月31日

編集 太宰府市総務部情報・公文書館  
推進課市史資料室

〒八二一〇一〇

太宰府市御笠五丁目三一

電話 〇九二一九二二―二三三三

E-mail:city-shishi@city.dazaifu.lg.jp

印刷 太宰府市  
株式会社博多印刷

〒八二一〇〇二八

福岡市博多区須崎町八番五号

電話 〇九二一二八一―〇〇四一